

1 これまで 3 年間（H20～22 年度）の取組について

1 児童・生徒の状況

(1) 学習事項の定着（学力）について

（成果）全国学力・学習状況調査の平均正答率は年々向上している。また、学力の厳しい子どもの割合も減らすことができた。これは子ども一人ひとりを大切に「聴き合い学び合う授業づくり」をめざし、全教職員が公開授業を行うこと、算数パワーアップや夏休みいきいきスクールなどによる個別指導を進めたこと、子どもの進路保障をめざし、学力保障部会が中心となって学校全体として授業改善を進めたこと、子どもたちが自分の生き方を考え、学ぶ意欲を高める総合学習やキャリア教育の推進をめざして取り組んだこと、子どもたちが安心安全に過ごせる生徒指導や仲間づくりを進めたこと、加配教職員の効果的な運用などが考えられる。

（課題）改善は進んでいるが、二極化がまだまだ克服できていない。今後とも、学力向上に向けた授業づくりや家庭学習の定着など、これまでの取組を充実させた上に、補充学習や個別指導など学力向上に結びつく丁寧な取組が引き続き必要である。また、中学校区のテーマである「18歳時点で多様な進路を選択できる子どもの育成」に向けて、様々な取組を通じてすべての子どもの学ぶ意欲、進路意欲を高め、学力保障、進路保障を進めていきたい。

(2) 「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の育成について

（成果）すべての項目において年々向上している。子どもが自分の生き方を考え、学ぶ意欲を高める総合学習、丁寧な人間関係づくり・集団づくり、日々の生徒指導などがこの結果につながったと考えられる。

（課題）引き続き「ゆめ力」「つながり力」を高める取組を進めつつ、「自分力」と「学び力」の向上が課題である。様々な環境の中で自分の将来を切り拓いていく子どもたちに、自分をゆめを語り、ゆめを実現するため努力しようとする意欲と実践力を育てていくことが求められている。そのために、子どもにつけたい力を学校全体として共通認識し、その上でこれまでの取組をキャリア教育の視点で整理し、各学年の取組の系統化を図っていきたい。

2 学校の取組

（成果）学校の課題を全員が共有し、確認された方針をもとに、学力保障部会が中心となり、授業研、公開授業の実施、保護者と連携した生活向上の取組(生活アップ月間)、読書活動の活性化などに取り組んだ。授業研では佐藤雅彰先生、佐藤学先生を講師とした豊川中学校区三校合同授業研を実施した。「聴き合い学び合う授業づくり」をめざし、全教職員が公開授業を今年度も行うことができた。すべての教職員が授業公開を行うとともに、その後のふり返しを行うことが授業改善につながっていった。授業研にあたっては、関係教職員が授業案の検討や援助を行い、チームとして授業改善を進めることができた。さらに、保護者や梅花女子大学と連携した読み聞かせの実施、読書の時間の設定、図書館の整備、朝の読書活動などに取り組んだ。これらの取組に加え、図書の日や情報委員会による休み時間の図書室の開放により、本の貸し出し数が年々増加している。

（課題）個々の教職員の授業研究の一層の推進と学校としてのチーム力の向上に今後も努めていく。教職員の世代交代が進む中で学校としての力を一層高めていけるよう取り組んでいきたい。また、地域、家庭、様々な組織、人との連携をさらに進めていきたい。

2 これから3年間（H23～25年度）の取組について

1 3年間の重点課題

重点課題	検証軸	25年度の到達目標
学校全体として、「聴き合い学び合う授業づくり」を進め、全ての子どもの意欲を高め、学力向上を進めること	大阪府学力・学習状況調査の平均正答率	H22年度の正答率を上回る H22年度の正答率40%以下の児童・生徒の割合を減らす
読書活動の活性化を進める	本の貸し出し数	H22年度の貸し出し数を上回る
子どもたちの学ぶ意欲を高める総合学習やキャリア教育の推進をめざして取り組む	「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」のアンケート結果	H22年度のアンケート結果を上回る

2 3年間の取組計画

3年間共通の計画	年度ごとの計画	
<p>授業研の充実を図る 毎年、全員が「学びあう授業づくり」をテーマに授業研を行っている。これを継続するとともに日々の授業に活かす。</p> <p>読書活動の充実 図書ボランティアなどの協力を得て、図書館整備を進める。</p> <p>読書活動の活性化をめざし、読書指導の工夫改善を進める。</p> <p>学ぶ意欲の向上 自尊心を高め、「生き方」「進路」「コミュニケーション」「人権」をキーワードにキャリア教育を推進する。</p> <p>生活習慣を高める 基本的な生活習慣の定着、向上を家庭・地域と連携して進める。</p> <p>体力向上に努める 体育の時間や日常の取組を通じて、体力向上に努める。</p>	平成23年度	～ の取組を行う。特に について引き続き、力を入れていく。
	平成24年度	～ の取組を行う。特に の取組に力を入れていく。
	平成25年度	～ の取組を行う。特に について重点的に取り組み、まとめの年度とする。

3 推進体制

